

令和2年度 南安曇農業高等学校 学校評価表(自己評価)

学校教育目標							
勉学・健康・品位の向上を図り、健康で教養豊かな科学的農業人を育てる。							
重点目標(中長期)		達成状況	成果	次年度への課題			
食料・環境・生命に関する教育を通して豊かな人間性と生きる力を育み、地域産業や地域文化の継承を担う人材を育てる。また、地域と連携して開かれた学校づくりを進め、安全で安心して学べる学校づくりに努める。		3.8 A	コロナ禍で、「開かれた学校づくり」を進めることが難しかった。その他は概ね達成できた。	コロナウイルス感染拡大防止対策をしながら、学校目標及び「3つの方針」の達成に努める。			
本年度の重点目標							
番号	項目	内容	観点	達成状況	成果	次年度への課題	
1	地域連携	開かれた学校づくり	① 各教科の授業や農業クラブの研究部活動での地域連携の精選と充実を図る。	3.5	3.5 B	・コロナ禍で実施できないことが多かった。開放講座はじめ交流活動が制限された。 ・①について、農業クラブではオンラインの会議や交流会を行い、出来る限りのことを実施した。 ・④について、保護者が来校する機会を設定できない中、「販売会」実施をWEBにより宣伝したことは、保護者に好評であった。	・次年度もしばらく状況が同じだとすれば、地域連携の実施方法について検討する必要がある。
			② 松本大学との連携によるマーケティング教育を農業教育の中へ位置付ける。	3.3			
			③ 安曇野市との官学連携において、具体的な内容の検討と実施を図る。	3.6			
			④ 学校WEBページによる地域や中学向けの情報発信を有効に活用する。	3.8			
			⑤ 創立100周年の南農の発展に向けて、地域人材や同窓会との連携を図る。	3.4			
2	生徒指導・生徒支援	安心・安全な学校	① よりよい生徒理解のため、情報を共有するための組織作りと職員会での情報共有を行う。	3.9	3.8 A	・全体的には生徒指導案件が少なく、落ち着いていた。 ・⑤について、スマホやインターネットを通じた大きなトラブルや問題行動はほとんどなかった。 ・⑥について、生徒会活動が制限される中で、生徒自身に考えさせ取り組ませることが難しかった。 ・⑦について、中止せざるを得ない行事もあった中、工夫して実施した行事についてはコミュニケーションの活性化を図ることができた。特に南農祭については一般公開はできなかったが、実施に向けて生徒自身が主体的に計画し、結果として素晴らしい取り組みになった。	・⑤⑥について、来年度から校内でのWi-Fi運用が始まる中、ネットの利用については生徒個々のモラル向上がますます求められる。 ・コロナ禍において南農祭や部活動など、感染拡大状況を鑑みた対策をした上で、生徒の活動機会はできるだけ減らすことなく、取り組みたい。
			② いじめや生徒間トラブル、問題行動の未然防止につとめるとともに、問題の早期発見と解決の指導を行う。	3.7			
			③ 教育相談体制を充実し、生徒・保護者への周知を積極的に行う。	3.9			
			④ 生活アンケートやアセスを実施し生徒の状況を適切に把握する。	3.9			
			⑤ スマートフォンやインターネットへの関わり方について指導し、ネット上でのトラブルやいじめがないように図るとともに、問題を早期発見し拡大しないよう予防教育に努める。	3.6			
			⑥ 生徒会と連携し、携帯電話・スマートフォンの使用について生徒自身が使い方について考える取り組みを行う。	3.4			
			⑦ 様々な行事を通して、クラスや学年での生徒間のコミュニケーション活性化を図る。	3.9			
3	学習指導	学力の向上	① 授業アンケートを生かして授業改善を実施する。多くの生徒が「よい(よく分かる)」「たいへんよい(たいへんよく分かる)」と感じられるように努力する。	3.8	3.9 A	・①について、ICTの導入やオンラインを活用できるようになり、新たな教材を提供でき、今までにはない学習方法が実践できた。 ・②については例年本校の課題となっているが、4・5月の休校期間中に課題を郵送して対応することによって家庭で学習する習慣づけになった生徒もいた。 ・②について、朝学習については全学年で実施し、基礎学力の向上とともに、落ち着いて学習に取り組む雰囲気づくりができた。また、着実に成果も出た。 ・③について、コロナ禍で研究期間が短くなったにも関わらず、課題研究では3年生は主体的な研究活動を実施できた。 ・⑥について、数少ない外部講師活用の機会を利用し企業の方から教えを受け、日頃の授業内容を深めることが出来た。	・①や②については、今後も教員個々の授業スキル向上を継続する。また、本年度配備されたICT機器を有効利用して、課題提供の仕方を含め、授業改善を図る。 ・農業科授業において、地域での交流活動や販売活動が制限される中、教科の目標に則った活動の実施方法について、検討を進める。
			② 基礎的・基本的な学力の向上のため、各教科にて課題を出し家庭学習の習慣付けのための工夫をする。	3.6			
			③ 課題研究やプロジェクト研究等、探究的な学習への主体的な取り組みを通して、総合的な学力の向上に繋げる。	4.1			
			④ グリーンサイエンス科では、栽培・管理・栽培物の活用に関する基礎的知識・技術を習得させるとともに、交流学習や販売実習等の実践的な体験活動を通じて協働的な学習や言語活動の充実を図り、「コミュニケーション力」「企画力」「指導力」等、総合的な学力の向上を図る。	4.0			
			⑤ 生物工学科では、植物・動物・微生物に関する基礎的知識・技術を習得させるとともに、実験・実習及び研究活動を通して、地域に根ざした「探求的な学び」である「あづみの学」を活用した地域資源を有効に活用する課題解決型学習の展開を図り、総合的な学力の向上を図る。	4.1			
			⑥ 環境クリエイト科では、測量設計・土木施工・造園などの基礎的知識・技術を習得させるとともに、産学官連携の充実を図り、専門的技能(資格取得等)の学習を通して、専門力と創造力を必要とする探求的な学びを実践する等、総合的な学力の向上を図る。	4.1			
4	キャリア教育・進路指導	キャリア教育の充実	① 就職・進学指導体制の充実を図るための研究、情報収集を続ける。	4.1	4.0 A	・①について、本年度の就職状況は厳しい中で、多くの生徒が第一希望に就職できた。 ・④について、コロナ対策を行いながら、土日の講習や朝・放課後の講習を実施した。しかし開講できなかった資格もあり生徒に迷惑をかけた。 ・③～⑤について効果は十分あるが、教員の超勤、休日出勤の原因となっている。	・進路目標達成のためにも、まずは授業の充実を図り、授業内容等の工夫をする。 ・進学指導については、高大接続改革により入試内容が変更となっている大学等もあり、指導方法の検討を重ねる必要がある。 ・資格取得については、感染状況を鑑みながら、できるだけ機会を確保したい。
			② 「キャリアウィーク」が更に有効な取り組みとなるよう内容を検討し実施する。	3.8			
			③ 生徒の多岐にわたる進路希望の実現のため、個別指導の充実を図る。	4.1			
			④ 資格取得に取り組む学習環境を整え、多くの生徒が合格できるように支援を行う。	4.1			
			⑤ 塾への生徒の参加を促し、それぞれの進路実現に向けた学力の向上を図る。また、1・2年生の積極的な参加を促す。	3.9			
			⑥ 大学進学希望者について、様々な機会を活用し学年・クラス担任と連携して早い時期からの意識づくりを行う。	3.9			

* 達成状況の評価の基準は S:目標を大幅に上回った A:目標を上回った B:ほぼ目標どおりできた C:目標を下回った
 * 5段階の評価数値による集計で 4.5以上 4.4~3.6 3.5~3 2.9以下 を目安とする